

## 第4回 沖縄の古代史漫画

沖縄という地は、本土から隔絶されているため、いろいろな面で個性あふれるものを持っています。

今回は、この沖縄の地に秘められた古代のロマンを探るマンガ作品の数々を紹介します。

古代史に謎と神秘はつきものですから、これを取り上げた作品となると、もうSFとファンタジーが入り混じって、玉石混交、おおっと驚くような作品がいっぱいです。

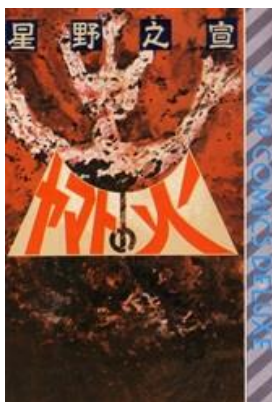


まずは、古代史の謎をテーマに次々と作品を発表している**星野之宣**氏の傑作「**ヤマタイカ**」(全**6巻** 潮出版社刊)。

神の島・久高島の対岸、斎場御獄の下の海岸から発見された古代の船。火の神を崇める女たちの一団は、「火のまつり」を復活させるため本土をめざし、日本各地の火山の噴火とともに騒乱の波を日本全土に波及させていく。

そして、時空を超えて繋がった火の神への思念は、海底に沈んだ戦艦大和を亡霊のように甦らせ、米軍との戦闘状態を惹起させて……。

なお、本作の習作ともいえる作品に、「**ヤマトの火**」(星野之宣/著 集英社刊)があります。いずれも文庫版で再発行されています。



次に紹介するのは、与那国海底遺跡をテーマに取り上げたショート・マンガ。

「ムー大陸最大の都市「ヒラニプラ」～ムーシャンバラ繁栄の黄金都市の謎～」(原作/佐東みどり 作画/藤田シーン、「消えた古代都市の真相」竹書房刊・収録)





「幻の海底遺跡伝説 ～海底深く眠る神秘の遺構に潜む恐怖と戦慄!!」(原作/奇林檎 作画/伊賀和洋 「禁断のオーパーツと超古代文明の謎」学習研究社刊・収録)

与那国海底遺跡を取り上げたショートストーリーですが、変な誤解や陰謀論を想起させるこれらの作品は……? といったところ。



与那国海底遺跡をテーマにした代表作には、「MMR(マガジンミステリー調査班) 海底遺跡の謎を追え!!」(石垣ゆうき著 講談社刊)

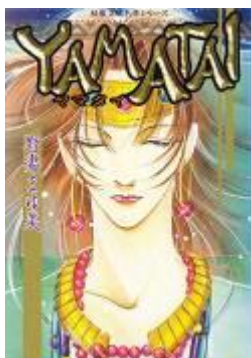
といった作品もあります。

こちらは、遺跡とムー大陸との関連を、真剣に仮説を組み立てながら理論構築しています。



「キン肉マンII巻 第21巻」(ゆでたまご著 集英社刊)では、海の底から浮上した海底遺跡の内部? が舞台となってストーリーが展開していきます。

漫画本としては、謎解き本よりもこちらののような創作作品の方に人気があるかもしれません。アニメ化された時、その設定が生かされたかどうかは、わかりません。



「YAMATAI(ヤマタイ)」(野妻まゆ美著・双葉社刊)

与那国海底遺跡から始まる時空を超えた邪馬台国の男女の物語。

過去の悲劇を乗り越えて二人の愛は成就するか? という内容です。

文庫版で見つけた少女漫画ですが、こんな作品もあったのかと驚くばかりです。



次は、「ブルーソネット」等々有名なSF少女漫画家・柴田昌弘氏の「龍の砦」(全2巻・学習研究社刊)を紹介します。

本作品は、現代から戦国時代の琉球へ、意識だけがタイムスリップしたという高校生の大冒険SFファンタジーです。

倭寇退治、琉球王朝、そして島の海底に佇む謎の海底遺跡と怪物たち。期待される展開だったのですが、残念なことに連載誌が休刊となったため、途中で強引に終わってしまいました。惜しまれる作品です。



### 「イオ」(全10巻・恋緒みなと著・講談社刊)

続いて紹介するのは、慶良間諸島・座間味島を主な舞台に展開されるSF漫画。

海中写真家だった父を追って、沖縄へ出かけた主人公は、そこで美女姉妹と知り合う……。姉妹と主人公を結ぶ血縁と禁断の恋、島の古代遺跡の関連とは？

全10巻という長編作品なのもすごいけど、座間味島の観光PRに大きく貢献したのではないかと思います。

対岸の那覇も時々舞台になっています。

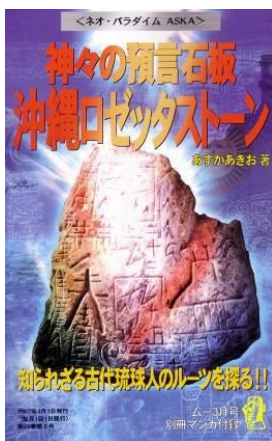
(なお、作中に登場する古代遺跡は、たぶん実在しないはず？ でも、付近の海に古代の遺跡らしきものがあるとの報道もあつたりしますので、まったくの空想ではないし……あつたらいいなと思つたりします)



### 「海の彼方」(「天使なやつら第3巻」収録 今井康絵著・小学館刊)

沖縄を修学旅行中の中学生3人が、突然、古代ムー大陸？ に飛ばされてしまうという物語。古代沖縄とムー帝国の関係は？

完全に少女漫画ですが、よろしければお楽しみください。



沖縄のロゼッタストーンと呼ばれる線刻石板を取り上げた作品もあります。

それがこちら、「神々の預言石板 沖縄ロゼッタストーン」(飛鳥昭雄、三神たける/著 学習研究社刊)。

雑誌「ムー」2007年3月号(学研)の付録として発行されたものですが、11点しか見つからないはずの線刻石板が、なんと他に多数(144枚)見つかっているとされていて、アメリカ軍が管理しているということが明かされています。

これは本当のことなのでしょうか？ わかりませんが、もし事実なら大ニュースじゃないかな？

新書版の「預言石板の謎と日本ムー文明」にも収録されて出版されているので、興味がある方は入手してみてもいいのではないでしょうか。

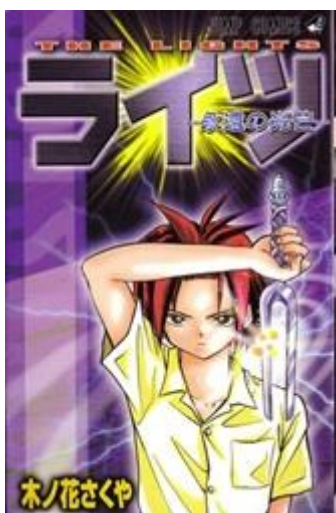


「超古代文明の真実」(神谷充彦/監修 宝島社刊)第5章「ムー大陸とアトランティスは東南アジアにあった?!」

研修旅行で沖縄へ来た二人の女性。

与那国海底遺跡を訪問する中で展開される、スندان島と沖縄の旧石器人とを結ぶ理論が面白い。

ムー大陸やアトランティスを従来の大洋のど真ん中ではなく、大陸性地殻があった東南アジアにあったとして、沖縄の古代人はそこから渡ってきたという仮説を提議しています。



「ライツ ～永遠の光芒～」(木ノ花さくや/著 集英社刊)

ジャンプコミックス。

修学旅行で沖縄を訪れた主人公・天海ヒカリは、謎の現象に遭遇、そして与那国島の海底遺跡を訪れたのをきっかけに、超能力に目覚めることに……。



## 「宗像教授伝奇考 第4集」(星野之宣/著 小学館刊)

第1話「サルタヒコ計画」

天孫一行を迎えた謎多き神・サルタヒコの正体に宗像が挑む。沖縄から来た忌部と合流し、海岸線に立てられたサルタヒコを模した巨木遺跡から得られた結論とは？ 注記/忌部は、沖縄で古民家、高倉を見学しています。



最後に、知られざる作品を紹介。

## 「STRANGER」(漫画/あびゅうきよ 原作/佐藤守 青林堂刊)

沖縄のニライカナイ信仰とグスクをはじめとする古代遺跡を宇宙人と結び付けて展開した作品。

主人公の航空自衛隊パイロット・星野三尉は、沖縄近海で未確認飛行物体を目撃するが、上官からは精神状態を疑われ、飛行停止処分を受けてしまう。

そんな星野の前に現れたジャーナリスト・小野沢未来。彼女の正体、そして目的は何か？ 実際に起こったソ連機の領空侵犯事件などの史実と浦添の羽衣伝説も絡めて、物語は沖縄県民なら身近なところを舞台にどんどん展開していきます。

この他、短編、1Pだけのマンガもありますが、ここで紹介するのは控えたいと思います。また、特筆すべきものとして、ライトノベル？小説「宇宙皇子」(藤川桂介/著 角川書店刊)でも古代「琉球」を舞台にした巻がありますので、一応紹介しておきます。

担当/量産工房

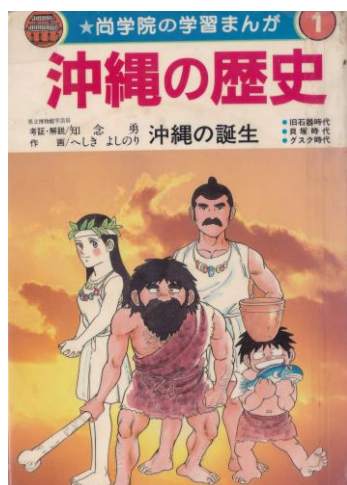
## 追記

関連するものとして、次の漫画もあります。



「マンガ 沖縄・琉球の歴史」(上里 隆史/  
著 河出書房新社刊)

最近刊行された沖縄・琉球の歴史についての  
マンガ雑学本。



「沖縄の歴史」(作画／へしきよしのり 考  
証・解説/知念勇 月刊沖縄社刊)

尚学院の学習まんがシリーズとして企画され  
たが、この1巻だけで終わってしまった作品。

内容としては、旧石器時代・貝塚時代、グスク  
時代を解説している。

刊行年以降、新たな発見があるので少し物足  
りないかもしれない。